令和８年度　霧島市母子保健検討委員会　会議要旨

開催日時	令和８年８月 24 日（月）　19:30～21:00
開催場所	霧島市総合保健センター　１階集団検診室
出席委員	植木委員長、前田委員、福田委員、入口委員、塗園委員、中村委員
事務局	【母子保健課】上小園母子保健課長、中見母子保健管理グループ長、木原母子保健第１グループ長、東母子保健第２グループ長、前迫主査、池下主任主事、中島こども発達サポートセンターグループ長 【こどもセンター】亀石こどもセンター副所長 【学校教育課】有馬学校教育課主幹 【こども家庭相談センター】稲留こども家庭相談センター主幹

公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	０人

議事

（１）健康きりしま 21(第４次)
　　第４章　分野別の目標と具体的な取組【母子保健分野】について
（２）その他

協議結果等の概要　　委：委員　　事：事務局

（１）健康きりしま 21(第４次)
　　第４章　分野別の目標と具体的な取組【母子保健分野】について
　　⇒　事務局が資料に沿って説明。

　　委員からの主な質問は次のとおり。

委：おめでとうコールで産婦の階層化をしているが、それぞれどのくらいの割合の方がいるのか。

事：年度によって違うが、高リスクが 20～30 名程度、該当なしや低リスクの方が８割程度を占めている。

委：乳幼児死亡率について、不慮の事故はそれぞれ何人か。

事：それぞれ１人ずつとなっている。

委：産後ケア事業において、利用者の困りごとはなにか。

事：　まずは休息、次に授乳についての悩みが多く、最近では離乳食についての悩みが増えてきている。

委：こども発達サポートセンターの乳児健康診査における繋ぎはどのような流れか。

事：３歳児健診から母子保健課が半年ほどフォローを行い、その次の段階でこども発達サ

ポートセンターに繋がる場合と、園の巡回相談事業から療育へ繋がる際に個別の相談として相談・面談等を行っている。

委：母子保健推進委員の訪問件数が半分以下になっているが、母親の気持ち、どのように思っているのか聞きたい。

事：里帰り中の方は里帰り先での訪問を希望する方、また最近は授乳についての相談が多いため助産師さんを希望する方が多くなっている。

委：保育園において発達の特性があるお子さんの割合はどうか？

委：療育と保育園の並行通園をしているお子さんは年々増加しており、小さい子は２歳から療育を受けている。巡回相談等で先生からアドバイスをしていただき、連携を取っている。仕事復帰をする方は早くから園の見学に来ており、先ほどの産後ケア事業と同様にミルクの相談や離乳食などの相談も増えてきており、困っていたり、悩んでいる方が多いのかなと思う。

委：情報が得にくい中で本当に困っている人がいるんだろうなと思いながら、地域のサロンを開催しているが、直接声掛けが難しい中でどのような形で進めていくか悩んでいる。

委：隼人で地域の子育てサロンを実施しているが、初めは広報活動、自治会のお便りに入れたり、SNS を活用したりしている。あとは、いろいろな場所にお便りを置いている。

事：地域の子育てサロンや支援センターの情報を健診会場に掲示している。また、持って帰れるように資料も準備している。

委：自分で情報を取りに行ける人のケアは十分されていると思うが、情報を取りに行けない人の支援が必要だと思う。
３～４か月児健診の際に、アンケートで〇が付いた方がいれば連絡をくれということになっているが、誰に連絡したとかカルテに書いてあって、連絡なかったという方が３名いたがどうなっていますか。

事：連絡をいただいた方については、全員こちらから電話をするようにはしているが、電話が繋がらなくて、という方もいらっしゃる。繋がらなかった場合は、次の教室等でフォローしていくようにはしています。

委：保健センターから「連絡したよ」「こういうことにお困りだよ」という連絡は医療機関にはないものなのか。連絡があれば、予防接種の際に「保健センターに電話してね」などの声かけができると思うんだけど。

事：医療機関からいただいた連絡で、また引き続き医療機関で見守りをお願いさせていただきたい方については連絡を取らせていただいているのですが、「大丈夫でした」という方については医療機関にお返しできていない状況なので、今後検討していきたい。

委：実際に連絡が途絶えた方で何かしらに繋がる人は良いが、３～４か月児健診、７～８か月児教室に来られない方には、必ず会ったりはしないのですか？

事：３～４か月児健診を受診されていない方については、必ず訪問をし、目視で確認を行っています。また、妊娠期から支援が必要な方については、教室等に来られなかった場合は連絡をし、様子を伺って必要な支援を行うようにしています。

委：本当に繋がらない人、顔が見えない人こそフォローが大事ですので、ご努力感謝します。転入された方についての予防接種について、どこまで予診票を渡しているのか聞きたいです。

委：合わせて、外国籍の子どもさんについて、小学校で行っているいろいろな健康診断等の英語版を作成してほしい要望を出しているところですが、予防接種の把握はどうなっているのかなと思っていました。

事：まず予防接種についてですが、転入された方に対しては接種日を記入していただくかWebで入力していただく用紙をお送りさせていただき、確認をさせていただいています。接種が必要なものがある場合はこちらに来所していただき、予診票を発行しています。

委：転入の方について、日本脳炎の発行は必ずされるのか。

事：日本脳炎については、小さい頃に受けている方もいるので、母子健康手帳を確認し、接種間隔や年齢を考慮して発行しています。外国籍の方についても予防接種の履歴等を持ってこられたら日本で受けることのできる予防接種を案内しています。

委：転入の際に案内とかはないのか。

事：市民の皆様へという案内文書があり、小さいお子さまが転入した際には母子保健課への案内が載っている。

委：予防接種は強制か。

事：強制ではない。

委：海外ではワクチンを打っていないと幼稚園や小学校等に入れないけど、日本はどのくらいの人が打っているのか。

事：ワクチンによって接種率は異なると思うが、絶対に受けたくないという人もいるので、強制的に打つようにと話をすることはしていない。

委：妊婦もRSワクチンが始まり、初めは自費だったので接種する方は２割程度だったが、無料で接種できるとなったら９割程度となっている。

事：外国籍の方の予防接種についてですが英語版を用意しており、また母子健康手帳も外国版を活用していただくようにお願いしている。健診についても英語版や他の言語版を用意して行っている。
学校においても、要望があがってきていますので、今後検討させていただきたい。

委：予防接種の接種率はだいたい 90 数パーセントだが、日本脳炎２期の接種率は低い。接種率は高いといっても全国平均をみると鹿児島県全体が低い。
５歳児健診については、小児科医全体として強く求めているのではなく、発達を専門にみられる先生は重きをおいているが、重要なのは園だと思っている。個別でみても分からない部分が集団で観察するとわかったりする。小学生で特性があるかなと思う子どもたちの保護者に声をかけるとすごく嫌がられるので、介入がとても難しい。

委：視力の低下が気になっていて、早めの手立てがないかなと思う。

委：３歳児健診では目の検査があるが、その後ない。タブレットの使用年齢も低年齢化している。

委：５歳児健診で、視力も診ていただけたらいいなと思う。

事：３歳児健診のその後となると就学時健診のときに視力検査があるが、視力のみの検査。

委：実際、学校でも視力の低下、左右差というのが気になる。姿勢というよりもメディアとの接触が主な原因なのではと学校でも考えてはいるが、メディアを使えないと立ち行かない世の中になっている。発達の特性がある子の学習支援にもなっており、視力の問題だけではなく、心の発達にも関係しているのかなと思う。子どもたちもすぐにＡＩに聞いたりするので、妊婦さんもＡＩに相談して、慰めてもらったりいいところもあるが、実際の解決には至っていないのかなと思う。

委：メディアとの付き合い方は全人類の問題かなと思う。

（２）その他
事：健康きりしま 21（第５次）策定に向けてのアンケート調査についてです。
母子保健分野に関しては、①妊娠中から産後（(生後２か月から７か月児の保護者）の母親と父親)、②未就学児、③児童生徒を対象にアンケート調査を行うこととなっている。

委：スマホやタブレットの使用時間のところで、中学生となるとタブレットで授業を行うことが多いので、授業も含めてなのか家庭だけなのか何かしらの注釈があった方がよいと思う。

委：前後の質問から読み取って答えられないか。

委：学校が作成したものではないので、学校側も説明できないし、子どもたちも全員が理解できるわけではない。

委：相談できる人はいますかというところで、中学生だと部活動の先輩に相談することも多いと感じるので、追加するのはどうでしょうか。

委：アンケート調査はいつ配布し、検討するのか。

事：今年度中にアンケートを配布し、来年度集計したものを確認・検討していく。

会議資料	【配布資料】 〇会次第 〇令和８年度霧島市母子保健検討委員会委員名簿 〇霧島市健康・生きがいづくり推進における各種委員会の設置に関する要綱 〇令和８年度霧島市健康・生きがいづくり推進の組織体制 〇健康きりしま 21(第４次) 〇健康きりしま 21(第４次)【母子保健分野】について　資料